

NAGでみる限りは軽度で可逆的であった。シスプラチン反復投与の腎機能への長期的影響を検討するために尿路性器癌35例について数回の化学療法を行った後のCcrを開始時のCcrと比較した。シスプラチン総投与量とCcrの低下に明らかな関連はみられなかった。シスプラチン投与後の腎組織へのPt蓄積について検討するためにシスプラチンを投与された剖検例10例で腎組織中Pt濃度を測定した。腎組織Pt濃度はシスプラチン総投与量よりも死亡前6カ月間のシスプラチン投与量と相関がみられた。

シスプラチンによる腎内グルタチオンに及ぼす影響：鈴木英訓，町田豊平，増田富士男，仲田浄治郎，近藤泉，古田希（慈恵大）シスプラチンによる腎の障害性について組織障害を防御する作用のあるグルタチオンGSHの動態から検討した。Fischer 344ラットを屠殺し腎皮質スライスを作製，シスプラチン（0~5mM）存在下，非依存下でincubationした。超音波処理し遠心後，その上清のGSH，glutathion reductase（GSSG Rx），及び細胞障害の示標として%LDH leakageを測定した。%LDH leakageに有意差はみられず，シスプラチンは急性毒性の発現は，しにくい薬剤と思われた。しかしシスプラチンによる細胞内GSH欠乏やGSSG Rxの抑制作用は著明にみられ殺細胞ないしは毒性発現に関連をもつことが示唆された。

Cis-platinum 誘発腎障害ラットにみられる腎マルトース代謝異常：小海力，宮川征男（鳥取大），猪川嗣朗，吉岡伸一（同ステロイド化学）Cis-platinum 誘発急性腎障害の腎のマルトース代謝障害，並びにその分解酵素であるマルターゼの変化，及び尿細管酵素であるNAG， γ -GTPの変化について摘出腎灌流法，腎皮質ホモジネートを用いて検討した。さらにその腎障害がステロイド投与により軽減できるか否かを併せて観察した。Cis-platinum 誘発腎障害では腎でのマルトース代謝障害が生ずるが，この原因として腎でのマルターゼの減少が考えられる。尿細管酵素のマルターゼ，NAG， γ -GTPともに組織では活性が低下しており尿中に逸脱すると想定される。また今回のステロイド投与量では腎障害時のマルトース代謝障害を軽減できなかった。

シスプラチンによるラット腎障害に対するPGI₂ analogue（OP41483）の効果についての検討：吉田二郎，平山英雄，石松隆志，小川愛一郎，木谷公亮，上田昭一（熊本大），副島秀久（済生会熊本）PGI₂の血

管拡張による腎血流量の増加，血小板凝集抑制作用を利用し，SD雄性ラットを用い，catheterization後，生食（control群），PGI₂ analogue（OP群0.5 μ g/ml）を投与し，30分後にCDDDD（5mg/kg）をone shotで投与，その後1時間30分輸液し，5日目に屠殺，投与前後の尿量，Na，K，Cr，U-UN，NAG， β_2 -MGを測定した。尿量はcontrol群に比較してOP群は増加傾向を示し，第3，4日目に有意に増加した。S-Crはcontrol群4.61 \pm 0.73mg/dl（M \pm SE）に対してOP群2.03 \pm 0.33mg/dlと有意に上昇が抑えられた。BUNはcontrol群171.1 \pm 27.6，OP群89.3 \pm 10.6と有意に抑制した。又OP群はCcrの低下抑制，FeNaの上昇抑制，NAGの排泄増加抑制が認められた。以上より，PGI₂ analogueはCDDP腎障害に対して，利尿作用及び，腎尿細管上皮の保護作用が推測され，腎機能低下を予防している可能性が示唆された。

CDDP based combination chemotherapy の nephrotoxicity（第2報）：林美樹，大園誠一郎，植村天受，金子佳照，平尾佳彦，岡島英五郎（奈良県立医科大），妻谷憲一，佐々木憲二（県立奈良），二見孝，吉田宏二郎（高田市立），趙順規（大和郡山総合），丸山良夫（松阪中央），守屋昭（回生）泌尿器悪性腫瘍73例に対してCDDPをfull doseで投与した化学療法（CAP，PVB，M-VAC）施行前後における腎機能の推移をretrospectiveに解析した。その結果，化学療法後に腎機能の悪化を示す所見はみられなかった。またCDDP投与量別，regimen別ならびに年齢別等で検討したが，著明な腎機能の増悪はみられなかった。今回はreterospectiveの解析のため，ほとんどの症例で施行前の腎機能が正常であり，したがって正常腎機能に対するfull doseのCDDP based combination chemotherapyの遂行には，腎毒性以外の副作用の克服がより重要であることが示唆された。

腎不全ラットにおけるリンパ球サブセットの検討：池本慎一，早原信行（大阪通信），上水流雅人，和田誠次，岸本武利，前川正信（大阪市立大）腎不全ラットを作成（胸腺，末梢血のリンパ球サブセットを解析し，thymosin fraction 5（TF5）投与による影響も検討した。8週齢雄性SDラットを5/6又は7/8腎摘し腎不全ラットを作成した。リンパ球サブセットはPE標識W3/25とFITC標識OX8の2種類の抗体を用いFACScanにてtwo color analysisを行った。腎不全ラットでは胸腺の重量が減少しておりTF5投与により回復した。また腎不全ラットでは胸腺リンパ球サブ